



会見小学校での授業の様子

子どものときから国際交流を
ジェシー先生とお話してみよう

南部町には、外国語指導助手(A
LT)として、昨年からジェシカ・
レイン・パーカーさんが配属されて
います。ジェシー先生は、町内各小
中学校に出かけて、英語で児童・生
徒たちと触れ合います。

最初は緊張していた子どもたち
も、徐々に慣れて上手にコミュニケ
ーションがとれるようになります。
子どものときから外国人と触れ
合う経験をすることで、大人にな
っても、すんなりと受け入れるこ
とが出来ますね。

ジェシー先生から南部町の皆さんへ

When I first came to Nanbu-cho last year, I was very nervous. At first, there were many things I didn't understand, but I learned more and more every day. Every day I laugh with the students. The teachers welcomed me and are my friends. I had the opportunity to meet many people in Nanbu-cho through school festivals, community events, and English conversation classes. When I came here, even though I had studied Japanese for four years in college, I did not have confidence in Japanese and could not always understand what people said. Now, I can speak confidently and understand Japanese. I look forward to another wonderful year in Nanbu-cho!

去年初めて南部町に来たときは、日本での活動に大変緊張していました。当時はわからないことばかりでしたが、今では少しずつ慣れて楽しく過ごせています。学校では毎日子供たちと笑いが絶えません。先生方とも友達のように仲良くなれました。学校行事や公民館のイベントや英会話教室などでもたくさんの町民の方と交流できました。日本に来たとき、大学で4年間日本語を勉強しても、自信がなくて、話すことも聞くことも大変難しかったのに、今では自信をもって日本語で話せるようになってきました。今年も南部町で素晴らしい一年を過ごすことを楽しみにしています!

ジェシカ レイン パーカー
Jessica Layne Parker

若い世代は国際的です

海外旅行は経験されたことがあ
る方も多いと思いますが、南部町
には、単なる旅行にすぎず、夢を持
って海外へ行く若者がいます。2
人ご紹介します。

米国公認会計士の資格取得を目
指す細川大介さん(落合)。

2005年から2年間、アメリ
カの2年制大学でビジネスマネジ
メントを専攻し、その後1年間、ア
メリカの小企業で経理補助として

働きました。そのときの会社の経営
不振で、その原因は会計の視点か
らの分析がうまく出来ていなかっ
たからでした。そこで、会計知識の
重要性を悟り、同じような中小企業
の役に立ち、社会貢献をしたいと思
ったのが会計士を目指したきっか
けでした。

将来的には、財務や会計に携わっ
て働きながら、米国公認会計士の資
格を取得することで、国際的に活躍
できる会計士を目指しています。

今では英語でのコミュニケーション

ヨンに不便はないという細川さん
ですが、はじめは大学の授業につ
いていくのが大変だったそうです。
細川さんは、「向こうに住めば自然
に話せるようになるとよく言われ
ますが、受身ではだめですね。自発
的に英語に触れることが大切だと
思います」と自身の経験を話して
くれました。



細川さん(ニューヨークの地下鉄の駅で)

もう1人は、「自分探しの旅に出
たい」と世界中を旅する青砥奈々
美さん(鴨部)。現在も旅の途中です。
「今はネパールあたりでしょうか」と話すのは父・日出夫さん。

5月7日に大阪南港から船で上
海に入り、その後は中国各地、ラオ
ス、ベトナム、チベット、ネパール
と旅を続けています。特に原住民
などの生活を見たいと、各国の奥
地を旅しています。

奈々美さんが家族にあてた手紙には、「どの部族も、昔と変わらな
い生活をきつと望んでいる一方で、
今の物質社会の流れに逆らうこと
が出来ない現状、みんな豊かな生
活がしたいために、たくさんの大
切な織物売ってしまっていること
を知ったときに複雑な気持ちが
しました」「日本に帰ったらもつと
日本人らしく日本のことを学び、
日本人らしい素朴な生活がしたい
です」と、海外に出て多くのことを
学び、改めて日本についても再認
識したと綴っています。

帰国時期はまだ決まっていな
いというのですが、日出夫さんは「体
調に気をつけて、元気で帰ってき
て欲しい」と奈々美さんの旅を心
援しています。

私に出来ることは何だろうか？

まずは身近に出来ることから
国際交流、国際協力に興味はあ
るけど、何をしたいのか、何が出
来るのかわからない、という人も
あるかもしれません。

前述のとおり、南部町では、毎年
7月頃、韓国ハンリム大学の学生
を受け入れています。6月頃から
ホストファミリーを募集します。

また、2年に1回、アメリカオハ
イオ州立大学の学生を受け入れて
います。今回は平成22年度の予定
です。

また、毎年12月、南部町国際交流
協会の主催で「外国語スピーチ発
表会&多文化交流会」が開催され
ています。まずは聞きに行ってみ
ませんか。

また、国際交流、国際協力のさま
ざまな活動を行っている「鳥取県
国際交流財団」をご紹介します。鳥
取県国際交流財団は、平成2年11月、
鳥取県における国際交流推進の基
盤づくりと国際交流活動の支援を
行うため、県民・民間団体・行政が
一体となった中核的な国際交流推
進組織として設立されました。

鳥取県国際交流財団では、県内在
住の外国出身者に対する支援や、外
国出身者と気軽に触れ合える国際
交流イベントなどを行っています。

9月5日に米子コンベンション
センターで、国際交流の集い「知っ
て体験！南の楽園ハワイって実は
こんなところ アロクハ」が開催
されました。

今年度内にあと3回国際交流の
集いが開催される予定です。(時期・
内容については未定)



「国際交流の集い」の様子

また、ボランティアの登録制度
もあります。ホームステイの受入や、
財団が行う国際交流活動事業への
参加など、気軽に始められる国際
交流ボランティアから、医療通訳
や日本語学習などの在住外国出身
者を支援するボランティアも募集
しています。大学などで語学を習
得したけれど、日常生活では使う
ことがないという方はおられます
か？あなたの語学力を必要とし
ている方がいるかもしれません。

本格的に国際協力！

かなり上級編になります。国
際協力事業団(JICA)が、開発
途上地域の住民を対象に、経済、社

会の発展、復興に協力するため、日
本からボランティアを派遣してい
ます。自分の持っている技術・経験
を開発途上国の人々のために活か
したいと望む方を募集しています。
10月1日から募集が始まりますの
でご案内します。

■青年海外協力隊説明会

10月11日(日)14時～

米子市文化ホール

■シニア海外ボランティア説明会

10月24日(土)13時30分～

とりぎん文化会館

国際交流、国際協力いろいろな
関わり方があります。少しでも身
近に感じていただいで、何か自分
に出来ることを探してみませんか？

●南部町国際交流協会事務局●

南部町役場企画政策課内

TEL 66-3113

●鳥取県国際交流財団米子事務所●

米子市末広町294

米子コンベンションセンター1F

TEL 34-5931

<http://www.torisakyu.or.jp>

●JICAホームページ●

<http://www.jica.go.jp/index.html>